



実施事業 小規模製造場における高品質果実酒製造技術の確立事業

ふくしま農家の夢ワイン株式会社

企業情報

〒964-0203 福島県二本松市木幡字白石 181-1 ☎ 0243-24-8170 FAX 0243-24-8172
<https://www.facebook.com/fukuyumewine/> E-mail fukuyume@ivy.ocn.ne.jp

事業者名 ▶ 代表取締役 斎藤 誠治

設立年月 ▶ 2012 年 9 月 19 日 資本金額 ▶ 2,190 万円 従業員数 ▶ 3 人

会社概要

二本松市旧東和地区は古くから養蚕や葉たばこの産地として栄えていました。しかし生産縮小規制や後継者不足などにより次第に産業は衰えてしまいました。荒れ果てていく畑を何とかしたい、地域活性化のきっかけをつくりたいと有志 8 名が立ち上がり、ぶどう畑を新たに耕し、ワイン製造会社を設立。現在はワインのほかシードルなど 12 種類の果実酒を製造販売しています。店舗での販売のほか、福島県内の酒販店や道の駅、各イベントなどでも購入することができます。



産業の衰退や縮小により廃れゆく畑を再生

東和の新たな産業のために立ち上がる



畑には約 2,000 本のぶどうを栽培

ぶどうは収穫までに約 3 年かかります。そのため、荒れ果てた畑の抜根作業からのスタートでした。かつて桑畑だった地にぶどうを植え、数十年使われていなかった農業用施設をワイナリーに改装し、一步一步前進していたところに東日本大震災が起きました。風評被害などの苦難もありましたが、年数を重ねるにつれてぶどうの収穫量が増加。栽培品種も今では 10 種類以上にまで増えました。

酒類を製造・販売するためには、製造工程の管理や各種データの計測といった徹底したデータ管理が必要になります。当ワイナリーでは製造を担当する従業員が一つひとつ手作業でデータを取り、記録していました。原料、成分、温度、廃棄物など工程ごとに計測しなければならない緻密な作業のため、作業効率の低下による生産量の伸び悩みなどが課題でした。

自然相手の困難なくだもの栽培

安定した品質をコンスタントに提供するために



発酵温度・殺菌処理の管理
ができる計測器

ワインは、品種や栽培方法などで味わいが異なります。当ワイナリーのぶどう畑は標高 200~400m にあるのですが、畑によりぶどうの出来が違います。また、同じ種類でも、天候等の影響により収穫の年によって仕上がりが違ってきます。高品質な商品を安定して提供するためには、ぶどうの出来具合も大切ですが、データ管理が非常に重要となります。

製造担当者はこれまで、ワインの産地として名高い山梨県へ何度も足を運び、ノウハウを学び、経験と実績を積んできました。製造は、データを計測しながら試飲し、調整していきます。より良いものを無駄なく、正確に消費者に提供するために欠かせない工程です。これらの作業は全て人的作業となるため、緻密なデータ管理は生産性を低下させてしまいます。そこで、当事業で計測器と生産設備を導入し、安定した品質管理と製造コストの低減・生産性の向上を目指しました。



環境に左右されない品質管理のもと

折り紙付きの味わいを全国に発信

新たな計測器の導入で、従業員の経験値だけに頼らない再現性の高い製造方法が確立されました。また、生産設備を取り入れたことにより周囲環境に左右されない安定した発酵温度管理や殺菌処理を実現。今後は県外市場へのアプローチも期待できます。その成果の第一弾として、2017年にJR東日本の「豪華寝台列車」で当ワイナリーの赤ワイン「一慶」と、羽山果樹組合で栽培したりんごのシードルが取り扱われることになりました。当社の製造へのこだわりや自慢の味を口コミで知った担当者が評価してくださったのです。このような快挙を踏まえ、今後は新商品の企画・提案に時間をかけることができるようになり、更なる販路拡大も望めます。加えて、客観的データに基づく製法方法の確立により、従業員のスキルアップや後継者育成にも取り組みやすくなりました。



ワイン、シードル合わせて全 12 種類を展開

盛り上がるワインブーム

イベントを開催し、消費者参加型のワイナリーへ

ワイナリーの PR と地域の活性化のため、SNS を活用しながら積極的にイベントを開催しています。毎年秋にはぶどうの収穫体験や飲み比べなどを行い、各地からワイン



収穫祭には県内外から多くの人が参加

好きが集まります。2017 年 6 月には音楽とワインのコラボレーション企画「福夢 WINERY ROCK FESTIVAL」を、10 月には福島県内で初の試みとなる「ワイナリーフェスティバル」を二本松市で行いました。

「第 7 次ワインブーム」といわれている現在、全国的に果実酒の消費が増加しています。それに伴いワイナリーも増加。県内でも 5 社が果実酒製造に取り組み、果実酒業界は大きな動きが出てきています。これまで以上に商品の個性が注目される今、当社のブランドの確立と地域活性化を目指していきます。

Comment



取締役技術担当 本多 和弥 (写真右)
取締役専務 武藤 栄利 (写真左)

起業した 8 名は定年間近の人間ばかり。しかし、美味しい果実酒づくりの夢にむかって若いころよりも慌ただしく日々を過ごしています。「くだもの王国ふくしま」の名にふさわしいぶどうを栽培して、皆さんに愛されるワインをこれからも製造していきます。くだもの栽培は自然相手の厳しい作業です。しかしそのぶん、作る楽しさや喜びもひとしおです。若い人々に興味を持ってもらい、地域一丸となって展開できる取り組みを展開していきたいと考えています。